

「自己を見つめ、思いや考えを深めることのできる児童の育成」

～年間指導計画の活用と評価を通して～

群馬県高崎市立中居小学校 教諭 大木 佐知子

1 はじめに

本校は、令和3年度の「関東地区小学校道徳教育研究大会 群馬大会」の研究発表校として、「自己の生き方についての考えを深め、よりよく生きていく力を育む道徳教育」の大会テーマのもと、学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育を補充、深化、統合する要として位置付けられる道徳科の授業において、「自己を見つめ、思いや考えを深めることのできる児童の育成」を目指し、研究をスタートした。

2 研究主題設定の理由

本校の学校教育目標は『『生きる力』を身に付け、心豊かで活力に満ちた児童を育成する』である。その実現に向け、道徳教育においては「豊かな人間性の育成」を掲げ、「道徳科の授業を中心とした道徳教育の充実」を目指し、日々教育活動に取り組んでいる。道徳教育を充実させるためには、道徳科を要とした道徳教育の効果的な指導を学校の教育活動全体を通じて確実に展開することが必要である。道徳科においては、道徳的価値について多面的・多角的に考えたり、自分との関わりで考えを深めたりすることを通して、自己を見つめ、思いや考えを深めることのできる児童を育てたいと考える。

そのためには、道徳科の指導が計画的、発展的に行われるよう年間指導計画を活用し、適切に評価、改善することが重要であると考え、本研究主題を設定した。

3 研究の内容

(1) 年間指導計画の活用

① 主題の設定と配列の工夫

道徳科において指導する内容は、児童の実態を考慮して、学年段階に応じた主題を構成し、この主題を年間にわたって適切に位置付け、配列する必要がある。そのため、本校では「道徳性アセスメントHUMAN（図書文化社）」（以下「HUMAN」）を全校児童へ2回（令和2年6月および令和3年4月）実施し、児童の実態を把握するようにした。「HUMAN」では学習指導要領の内容項目に対応した設問を児童が回答することで、児童の道徳性のおおまかな傾向を知ることができる。この調査結果を分析し、合わせて日常の児童の実態に鑑み、Aの視点では「正直、誠実」、Bの視点では「親切、思いやり」、Cの視点では「規則の尊重」を特に指導すべき重点内容項目とした。そして、年度始めの早い時期に重点内容項目を扱った道徳科の授業を全学年で行うようにした（表1）。また、他の教育活動や地域社会の行事の時期等に合わせ主題の配列を変え、ねらいとする道徳的価値を児童が自分のこととして感じたり、考えたりできるようにした。

月	週	主題名	内容項目
4	1	多くの人の支えに対して	感謝
	2	自分に誠実に	正直、誠実
	3	公共の広場を大切に	規則の尊重
5	1	自律的な行動	善悪の判断、自律、自由と責任
	2	誰に対しても思いやりの心を	親切、思いやり

表1 主題の設定と配列の工夫（5年生の取組）

② 重点的指導の工夫

【いじめ防止プロジェクト】

高崎市では平成24年4月から各学校の「いじめ防止プログラム」に基づき、いじめ防止の取組を行っている。本校では、いじめ防止に関わる重点的指導として、年度当初と2学期の始め（夏休みに実施される「高崎市小・中学校いじめ防止こども会議」の報告を受けて）、そして11月の人権週間に道徳科の授業を計画した（表2）。11月の授業は2単位時間にわたって行い、問題解決的な学習を用いて、児童にじっくりと考えさせ、自己を見つめる時間を確保し、児童一人一人が課題に対する答えを導き出せるようにした。

時期	主題名(内容項目)
4月 年度当初	相手の立場に立って (親切、思いやり)
9月 「いじめ防止こども 会議」の報告を受けて	友達と理解し合う (友情、信頼)
11月 人権週間	過ちを許す (相互理解、寛容)

表2 いじめ防止に関わる重点的指導（6年生の取組）

③ 各教科等や体験活動等との関連的指導の工夫

【社会科との関連的指導】

5年生では、社会科で自動車工業における工夫や努力について学習し、SUBARUの自動車工場を見学する活動がある。そこで、自動車工場の見学後、道徳の郷土資料集「ぐんまの道徳」にあるSUBARUの創始者 中島知久平を扱った教材「飛行機王～中島知久平～」を使い、内容項目「希望と勇気、努力と強い意志」の授業を計画した。知久平の飛行機製造をめぐる苦労や思いを、社会科の学習を通して、児童が実感を伴って理解できるようにした。

(2) 年間指導計画の評価

① 道徳科の授業実践

道徳教育の要となる道徳科の授業の充実を目指し、学校全体で協議しながら研究

授業を年6回(1授業×各学年)実施した。授業を参観する際には、「授業参観シート」を使用し、参観の視点を「発問」と「対話の場面設定」に絞った。授業検討会では、全教員を3グループに分け、それぞれのグループで成果と課題について協議を行った。グループでの協議によって、様々な意見を出しながら授業を振り返り、建設的に意見を集約できるようにした。授業検討会の内容については、「校内研修だより」を通して全教員へのフィードバックを行い、研究授業の成果と課題を効率的に周知し、共通理解を図るようにした。このように授業実践の評価、改善を行いながら、授業づくりの視点を明確化し、指導方法の工夫について整理した。

また、授業検討会で協議した研究授業の成果と課題は年間指導計画に記入し、今後の授業実践に反映させるようにした。

【授業実践によって整理した指導方法の工夫】

ア 発問の工夫

道徳的価値について児童が深く考え、議論する道徳科の授業づくりを目指すためには、教師主導で授業を進めるのではなく、児童の多種多様な考えを引き出せるような「発問」や「問い返し」を十分に練ることが重要であると考えた。児童の本音に迫るような「発問」や「問い返し」を意図的・効果的に行うことで、対話の意欲を高め、ねらいに深く迫ることができるのとらえ、指導案にはあらかじめ問い返しを明記した。

イ 対話の場面設定の工夫

対話の場面設定の工夫とは、道徳的課題について、自分の心の内にある考えを話したり自己や相手の考えを聴いたりすることを双方向で行えるような手立てを工夫することである。学級集団内のペア学習、グループ学習、学級全体での学習等、集団の大小など様々な形態における対話の場面設定を想定した。また、

「過去」「現在」「未来」に分けた自己との対話による振り返りも重要と考え、十分に振り返りをする時間を確保した。なお、GIGAスクール構想に基づく一人一台のタブレット端末の導入に際して、学習支援アプリ「ロイロノート」を用いて、①自分の意見をワークシートに記述→②ワークシートを撮影し提出→③友人の意見を確認→④友人の考えを参考にして自分の考えを深化、などのような取組も行ってきた。

② 年間指導計画

年間指導計画には、「事前活動」「事後活動」「振り返り」の項目を設けた。「事前活動」「事後活動」には、授業との関連的指導を考慮する教育活動を記入し、具体的な関連の見通しをもち、学習を意図的、計画的に進められるようにした。「振り返り」には、授業後に児童の学習状況や指導方法等、授業実践の気づきを記入した(表3)。そして、学期末に「主題の設定と配列」「重点内容項目の指導回数や時期」「関連的指導」「指導方法」等に関して年間指導計画の評価を行った。課題については改善策を検討し、関連する次の教材や次年度の指導に生かすようにした。こうした年間指導計画の評価、改善は、校内研修の研修計画に組み入れ、道徳教育推進教師を中心にして学校全体で取り組み、共通理解を図るようにした。

4 研究の成果と課題

- ・年間指導計画を活用し、重点的指導や関連的指導を工夫したことで、児童は学習する内容項目のつながりを実感し、ねらいとする道徳価値について多様な視点から考えたり自分との関わりを意識したりしながら学習に取り組む様子が見られた。特に、いじめ防止に関わる重点的指導の授業では、学習を重ねるごとに自分の生活と結びつけて考えることができ、道徳的価値の理解が深まったように感じた。
- ・重点的指導や関連的指導が明確になり、児童や学校の実態に応じた一貫性のある道徳教育を組織的に展開することができた。

【主題名】 教材名 (内容項目)	事前活動	事後活動	振り返り
【自然を守る】 10. 一ふみ十年 p. 45～48 (D 自然愛護)		・林間学校 ・国語 「白神山地からの提言～意見文を書こう～」 【意見文の記述】	・林間学校の事前学習として適切である。 ・自分との関わりで考えさせるのが難しい。 ・自分たちの町の自然を守る活動について知っている児童は少ない。→4年時の総合で学習した内容を想起させるとよい。
【自然を守る】 34. イルカの海を守ろう p. 156～159 (D 自然愛護)	・林間学校 ・国語 「白神山地からの提言～意見文を書こう～」 【意見文の記述】	・国語 「白神山地からの提言～意見文を書こう～」 【話し合い活動】	・国語で書いた意見文や林間学校での体験を生かし、様々な見方で自然を守るについて考えることができた。 ・ウェブングの活用が有効だった。 ・自然を守る思いが日本から世界へと広がり、地球の環境問題についても考えることができた。 ・林間学校の実施時期に合わせて学習する。

表3 年間指導計画の評価(5年生の取組)

- ・年間指導計画が学級や学年の教師間の研修の手がかりとなり、学校全体での方針を整理したり、進み具合を調整したりする際に役立てることができた。
- ・ねらいとする道徳的価値について児童の思考を深めるためには、内容項目や関連する各教科等の特質をよく理解してから、関連の仕方や指導方法を計画する必要がある。

5 おわりに

年間にわたって重点的な指導や内容項目間の関連等を図った指導を意図的、計画的に行ったことで、指導の効果が高まったとともに、年間指導計画の評価によって授業改善が進んだ。道徳教育の要として位置付けられる道徳科の授業において、自己を見つめ、思いや考えを深めることのできる児童を育成するためには、年間指導計画の活用は大変重要であると感じた。これからも年間指導計画を日常的に活用して適宜評価、改善を行い、各教科等との関連を図りながら道徳教育を推進していきたい。